



## 看護学科開設10周年によせて ～記念式典・祝賀会からの報告～

本看護学科は平成16年4月に、前身である奈良県立医科大学看護短期大学部から、奈良県立医科大学医学部看護学科に改組、4年制大学としてスタートして今年(平成26年)3月で満10年を迎えました。そして、10月4日(土)にはこの十年間を支えて下さった方々をお招きし、10周年記念式典と祝賀会を開催いたしました。

式典は細井理事長・学長の挨拶で始まり、ご多忙の中時間を割いてご出席下さいました荒井奈良県知事よりご来賓を代表して御祝辞をいただきました。そして、記念講演、シンポジウムへと移りました。

記念講演は、奈良大学教授の上野誠先生に「奈良で学ぶということ」というテーマでご講演いただきました。上野先生は、看護学科開設初年度に「万葉の文学と奈良文化」の非常勤講師としてもお世話になっており、懐かしい当時の授業資料をもとに、藤原京建都にまつわるお話を軽妙な語り口でお話し下さいました。そして、最後に「実感することなしに思考を草することはなし、現場の経験なしに実現はなし」と結ばれました。

私はこのお話を「実際にその場に身を投じて実感するこ



看護学科開学10周年記念式典で挨拶する細井学長

となく、自分の思考を書き表すことはできない。そして、それは現場の経験なしには実現しない」という意味に理解させていただきました。

シンポジウムでは、「これからの看護学教育に求められるもの～臨床現場からの提言～」というテーマで、本学の卒業生である榊裕美さん(第2期生)、松田綾香さん(第2期生)、速水真菜さん(第3期生)に、看護学教員(看護師)、助産師、保健師の実践現場から、それぞれ提言をいただきました。そして、10分余りの活発な討論の結果、

## Contents

看護学科開設10周年によせて～記念式典・祝賀会からの報告～	1
■叙勲受章者のお知らせ～心からお祝い申し上げます～	2
■理事長・学長からのお知らせVol.2 / ■キャンパス整備に向けた知事講演会が開催されました	3
■文部科学省高等教育局大学振興課長による講演会を開催しました / ■平成25年度計画の業務実績に対する評価結果	4
■附属病院内にローソンがオープンしました / ■附属病院エントランスがリニューアルされました	5
■生理学第一講座教授就任のご挨拶 / ■平成26年度奈良県医師会学術奨励賞の受賞者が決定しました / ■ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI(研究成果の社会還元・普及事業)を実施しました	6
■オープンキャンパス2014を開催しました / ■コンソーシアム実習2(早大・奈良医大連携講座)が開催されました	7
■東日本大震災被災地の福島県内で学生がボランティア活動を行いました / ■白檀生祭開催案内	8
■～第66回西医体総合5位～ソフトテニス女子・空手道女子 準優勝	9
■クラブ紹介	10
■図書館だより	11
■研究紹介	12
■産学官連携だより	13
■解剖慰霊祭を挙行了しました / ■実験動物慰霊祭を挙行了しました / ■医療倫理講習会を開催しました	14

■女子中高生の理系進路選択支援プログラム「いのちを支える医理系研究って、やってみよう!」を開催しました / ■第2回大和漢方医学薬学セミナーを開催しました	15
■5名の留学生を受け入れました / ■「情報セキュリティ研修会」を開催しました	16
■特別支援学校生徒の職場実習を受け入れています / ■不当要求防止に関する研修会を開催しました	17
■平成26年度前期公開講座「くらしと医学」を開催しました / ■なかよし保育園保護者から絵本を寄贈いただきました	18
■周術期管理センターを開設しました / ■IVRセンターを開設しました	19
■附属病院に国産花きを設置しました / ■針刺し・切創及び皮膚・粘膜曝露事故の防止にむけて / ■ホスピタリティマインド醸成研修にご参加ください	20
■第32回まほろばPEACE緩和ケア研修会を開催しました～本院に在籍する卒業2年目から5年目までの全ての医師は受講をお願いします～ / ■第1回がん就労研修会「明日香カフェ」を開催して	21
■第66回精神保健シンポジウム「発達障害者が地域で働くために～教育と就労支援～」を開催しました / ■奈良県看護フェアに参加しました / ■がん看護ステップアップ研修(基礎編)を開催しました	22
■部門紹介(C病棟4階・C病棟5階・C病棟6階)	23
■活躍する専門・認定看護師 / ■平成26年度奈良県看護協会会長表彰を受賞して / ■電気保安功労者経済産業大臣表彰を受賞して	24
■レポート / ■メディア掲載情報	25
平成27年度入試日程 / 掲示板 / 下ツ道 / 広告	

「学生が目的意識をもって学習に臨み、豊かな感性と的確な判断力、実践力を養い、明確な看護師像を持って看護師・保健師・助産師（大学院）を目指すことができる教育が必要である」と、私達看護学教員への提言をいただきました。また討論の中では、学生時代に卓越した看護師・助産師・保健師を見て自己の専門職像を描いていたことが語られ、実習では看護師が行っている実践の意味を学生が実感できるように説明することが実習指導教員に求められていることが明らかになりました。これは、特別講演の上野先生のお話の「実感することなしに思考することなし、現場経験なしに実現なし」に通じるものがあり、看護学が実践の科学であることを裏づけていると言えます。

後半の祝賀会では、飯田順三前看護学科長が看護学科の10年を振り返り、ご苦労された厳しい状況をユーモアで

和らげながらお話し下さいました。今では当時を知る教員も少なくなり、新しく就任してきた教員は“今”が過去につながり、より確かなアイデンティティを築く機会になったのではないかと思います。

それに続いて、第1期生の鳥塚亜希さん、森本紗代さん、森野貴輝さん、第2期生の辰巳知里さんが臨床・教育の現場から、それぞれのご活躍の様子を生き生きとご報告下さいました。

こうして看護学科開設10周年記念を機に立派に成長された卒業生のお姿を拝見し、奈良県立医科大学医学部看護学科の一層の充実とともに、高度な教育・研究機関としてさらに発展させていかなければならない責任を重く感じ、決意を新たに致しました。

**看護学科長 軸丸 清子**



知事祝辞



軸丸看護学科長の経過報告



記念講演いただいた上野教授(奈良大学)



シンポジウムの様子

(総務課)

**叙勲受章者のお知らせ～心からお祝い申し上げます～**

叙勲は、国家又は公共のために功労のあった方を対象に授与されています。

去る、4月29日に平成26年春の受章者の発令があり名誉教授の北村 惣一郎氏が受章されました。

心からお祝い申し上げます。

**瑞宝重光章**

**北村 惣一郎 氏(名誉教授)**

## 理事長・学長からのお知らせ Vol.2

### 【1】最近の医学部の動き

- (1) 全国医学部長病院長会議に荒川大阪市立大学医学部長が就任  
全国医学部長病院長会議は大学医学部の立場から国への提言などを行い、国家試験改革、共用試験改革等について国と協議を行っています。また、新設医大の認可に反対の立場から国への働きかけを続けています。40年以上の歴史の中で、今回初めて関西から会長を出すことになり、奈良医大からの提言を国に伝えるパイプが一つ増えました。
- (2) 関西公立医科系大学連合が発足  
国等への発言力強化を狙い、奈良医大、京都府立医大、和歌山医大、大阪市大医学部で4大学連合を立ち上げました。強力な他大学医学部はすでに公の大型プロジェクトに参入し、自大学の発展を進めようとしています。これらの大型プロジェクトにも4大学連合で積極的に参加して、奈良医大の発展に寄与できるようにしたいと思っています。

### 【2】学内報告

- (1) 一般教育組織改革に関するアドホック委員会  
理事長直属の組織改革に関するアドホック委員会を立ち上げました。大学評価・学位授与機構による「平成25年の大学機関別認証評価」において、現在医学科にある一般教育を、医学部に設置することが記されたためです。本学のアドホック委員会においては下記のような理事長の方針を示しています。  
①現状維持を優先するのではなく、20年後の奈良医大

の姿を思い浮かべて議論してほしい。

- ②世間一般の人が納得できる、合理的な議論をしてほしい。
- ③世の中の流れを見据えて議論してほしい。(文科省は数十年ぶりに学校教育法を改正し、他大学は急ピッチで改革を行っている。)
- (2) MBT (医学を基礎とするまちづくり)
  - ①先頃採択された内閣府地域活性化モデルケースについて、7月3日本省(内閣官房、総務省、国土交通省)の次長・課長級7名(うち2名代理)を橿原市に迎え、今井町を視察、検討会を行いました。これで、MBTが国のレベルでスタートしました。
  - ②公立大学協会主催第1回高等教育改革フォーラム(8月1日東京)で本学の「医学を基礎とするまちづくり」がとりあげられ、パネリストとして参加しました。
- (3) 学生との懇談  
6月20日夜に1時間半「卒業後の人生」について6年生との懇談の場を持ちました。奈良医大が卒業後の自分達にとってどれだけ大きい意味があるのかについて話しました。
- (4) 奈良県知事講演会を実施  
8月25日奈良県知事を迎え、本学大講堂大ホールにて講演会を開催いたしました。本学は来年創立70周年を迎えます。また、キャンパスの新設や大学・附属病院の抜本的整備といった100年に一度ともいえる機会を迎えています。この節目のときを「新たな飛躍」と位置づけ、本県医療の動向や県民の期待など、将来像の検討に欠くべからざる事情についてご講演いただきました。

(基本構想策定局)

## キャンパス整備に向けた知事講演会が開催されました

### 基本構想策定局

8月25日(月)、奈良県と本学の共催により、キャンパス整備に向けた情報提供と意識醸成のための知事講演会を開催しました。

第2期中期計画に掲げている新旧キャンパスの整備について、今後整備内容を具体化するに当たり、その前提として、どのような大学・附属病院を目指すのか、本学の将来像を改めて明確にする必要があります。そこで、今般、教職員・学生一人一人が本学の将来像を考える契機と参考になるよう、荒井知事を招いて県や県民が本学に期待することや関連する各種情報を紹介いただきました。

講演会では、始めに細井理事長から講演会の趣旨を紹介された後、荒井知事から「奈良県立医大の将来像をどう描くか」と題して1時間15分にわたり、70枚以上のスライド資料を用いて講演をいただき、最後に細井理事長から知事講演の意義や今後の対応について総括いただきました。

講演は、①奈良の地域医療ビジョンをどう構築するか、②奈良県立医大の改革への期待、③奈良県立医大を中心としたまちづくりの3つのテーマで行われました。①地域医療ビジョンは、奈良県の医療の将来と適切な医療提供体制の構築について、②本学の改革へ

の期待は、将来像の策定に当たって県民目線で期待される具体的内容について、③本学を中心としたまちづくりは、新旧キャンパスのレイアウトやアクセス動線について、それぞれ、本学の将来像、そしてそれを実現するためのキャンパスを考える上で、示唆に富む有意義な情報を紹介・提案いただきました。

理事長の総括の中で、知事が本学教職員・学生に講演されるのは創立以来初めてのことと紹介されましたが、今回の講演会は、県や県民の本学への期待の大きさを再認識する機会にもなりました。現在、将来像策定に向けた議論・検討を県と共同で進めていますが、その過程を教職員・学生全員で共有し、ご意見・ご提案をいただきながら、将来像を策定していくこととしていますので、今後ともご協力をお願いします。



満席となった会場



荒井知事

## 文部科学省高等教育局大学振興課長による講演会を開催しました

平成 26 年 9 月 9 日 (火)、文部科学省高等教育局大学振興課の里見朋香課長をお招きし、「大学のガバナンス改革の推進について～学校教育法の改正をうけて～」というテーマで、理事長をはじめ役員及び教授に向けてご講演頂きました。

講演の中で特に強調された点は以下のとおりです。

### ●大学で行うべきガバナンス改革

- 大学のガバナンス改革を推進するためには、学長のリーダーシップの確立が重要であり、学内の仕組み(学則、規則等)を法令に沿って見直す必要があること

### ●権限と責任の一致

- 権限と責任の一致の原則から、大学運営について最終的な責任を持つ学長が、校務についての決定権を持っていること

### ●副学長の任命

- 副学長については、学長のビジョンを共有できる者でなくてはならず、この主旨から学長が任命するものであること

### ●教授会の役割の明確化

- 教授会(会議)は決定機関ではなく、教育に関する事項について、学長が決定を行うに当たり、審議或いは意見を述べる事ができる機関であること



講演頂いた里見課長



講演会の様子

ただし、学長は、教授会の意見に拘束されるものではないこと

- 審議とは、議論することであり、決定権を含意するものではないこと

### ●学長の選考

- 学長の選考は、人格が高潔で、学識に優れ、教育研究活動を適切かつ効果的に運用できる能力を有する者のうちから、学長選考会議が定める基準により行わなければならないこと
- 高潔とは、社会的に信用がおけるということであり、社会的に批判を受けるような犯罪的行為を犯したことがないこと
- 学長の選考は、学長選考会議がその権限と責任において主体的に行うべきこと
- 意向投票の結果をそのまま反映させるなどの方法は適切ではないこと

## 平成 25 年度計画の業務実績に対する評価結果

第二期中期計画に係る平成 25 年度計画の業務実績について、奈良県公立大学法人奈良県立医科大学評価委員会による評価結果が通達されました。

25 年度計画で定めた事業について、「おおむね実施している」と判断され、本年度の業務実績を踏まえ、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては「順調に進んでいる」という評価を受けました。また、項目別評価は、以下の通りでした。

- I 地域貢献 (教育関連)：「Ⅳ順調に進んでいる」  
(研究関連)：「Ⅳ順調に進んでいる」  
(診療関連)：「Ⅳ順調に進んでいる」
- II 教育：「Ⅳ順調に進んでいる」
- III 研究：「Ⅳ順調に進んでいる」
- IV 診療：「Ⅳ順調に進んでいる」
- V まちづくり：「Ⅳ順調に進んでいる」
- VI 法人運営：「Ⅲおおむね順調に進んでいる」

### 【参考】\* 県評価委員会の定める評定区分・内容

- V 中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある
- IV 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
- III 中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる
- II 中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている
- I 中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある

なお、上記、平成 25 年度評価結果、平成 25 年度業務実績報告書、中期目標、中期計画、及び各年度計画については、別途ホームページに掲載しております。

(URL [http://www.naramed-u.ac.jp/info/plan\\_evaluation/business.html](http://www.naramed-u.ac.jp/info/plan_evaluation/business.html))



7月31日「第1回評価委員会」



8月12日「第2回評価委員会」

## 附属病院内にローソンがオープンしました

年中無休、24時間営業中です。とくに夜勤や残業の皆さんには、使い勝手がよくなりました。チケットの予約や toto の購入などができるマルチ端末のロッピー、ATM、コピー機の設置はもちろん、宅配便は申込みと受取りもできます。

県の木スギをカウンターや柱、壁の腰板に使用しているのが、自慢の一つです。木目の美しさが際立っています。今年の4月14日、県とローソンが、商品開発や観光振興、地域防災など包括連携協定を締結した成果です。

からあげクンがローソンの一番人気です。MACHIcafe のコーヒーやカフェラテと一緒に楽しみください。糖質とカロリーを抑えた、小麦外皮が原料のブランパンは、隠れた人気商品です。寒い季節が来ると温かいおでんがご馳走になります。ローソンならではの品揃えを味わってください。

共同開発商品(医大と会社)も売店と同様に販売しています。cocoa のクッキーは、低カロリータイプで好評です。杖を立て掛けるのに便利な杖ぴたとピタコちゃんは、あれば嬉しい商品です。血行を良くするストッキングや外反母趾用サポーターは、困っている人にお奨めです。



cocoaのクッキー



医大ロゴ入りグッズ

医大ロゴ入りグッズは使っていますか。青、緑、ピンクなど6色を揃えたボールペンは、大変書きやすいと評判です。修正テープやクリアホルダーも重宝されています。

Pontaカードがローソンのポイントカードです。100円で1ポイント(1円分)貯まります。よくお買い物される方には、クレジット付きのポンタカードがお得です。入会手続きが必要ですが、ポイントが2倍貯まります。入会金も年会費も要りません。支払いも大変便利で、これ1枚でOKです。

キャッシュレスにご協力をお願いします。ICOCA や楽天Edyなどの電子マネー、お手持ちのクレジットカードで支払ってください。クレジットカードは、1万円までサインが不要です。現金の受け渡しがなくなり、支払いが短時間で済むので、昼の混雑時には威力を発揮します。(弘済団)



オープニングセレモニー

(財産管理課)

## 附属病院エントランスがリニューアルされました

今年8月に正面玄関エントランスが明るく、美しくリニューアルオープンしました。

患者さん等大勢の関係者が出入りする「病院の顔」を大きな混乱もなく、無事改修することができました。皆さまご協力ありがとうございました。

正面玄関庇は経年劣化が進み漏水、冠水や鉄骨の発錆が見受けられておりました。

玄関に最も近いレーンの庇や救急玄関の天井はとても低く、車が擦る事故があったり、背の高い次世代の救急車の進入には支障をきたしておりましたので、躯体の構造上許される高さまで上部に設置し直しました。

既存の天井スパンデルは、濃い茶色で雰囲気が大変暗く、病院玄関の顔としては陰気でしたので、明るい色調にまとめ、軽快なイメージを創出いたしました。

さらに、北玄関から北方向に伸びるキャンピの柱には、木目調に施したステンレス柱

を巻いて、屋根厚さと柱のバランスを整えました。

クラシカルな黄色のノンスリップタイルは撤去して、より滑りにくいインターロッキングブロックを用いてデザイン貼りして、新鮮なイメージに仕上げました。

患者導線と車道との段差部分は、黄色のノンスリップラインを施して視認性を高め、安全性に配慮しました。

既存スロープに手すりを新設し、安易な横断による「踏み事故」を防ぐとともに、シニアにやさしいアイテムとしました。ダウンライトによる照明も今回の設計の目玉の一つです。快適になった夜景もお楽しみください。



北玄関



外観(夜景)

## 生理学第一講座教授就任のご挨拶

### 生理学第一講座 教授 齋藤 康彦

この度、平成 26 年 10 月 1 日付で生理学第一講座教授を拝命いたしました。

私は大阪で育ち、大学院までは大阪以外で暮らしたことがありませんでしたが、大学院修了後は愛知県と群馬県で約 18 年間過ごしてきました。このたび久しぶりに関西に戻ることができ、さらには伝統ある奈良県立医科大学で教育、研究に従事できることを大変うれしく思っております。私は神経生理学が専門で、脳スライス標本でのパッチクランプ法を用いた電気生理学的解析を得意とし、現在は視線を制御する

際の情報変換に関与する神経機構の解明を目指して研究に励んでいます。歴史深い奈良の地で、将来指導者として活躍できる医師、研究者を数多く育てるとともに、自身の研究を進展させることによって日本の科学技術の発展に貢献できるように、教室員一同、力を合わせて努力してまいります。皆様方にはご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



(研究推進課)

## 平成26年度奈良県医師会学術奨励賞の受賞者が決定しました

平成 26 年度奈良県医師会学術奨励賞の受賞者に、泌尿器科学の三宅牧人助教、精神医学の鳥塚通弘助教、内科学第二の太田浩世診療助教の三名が決定しました。

奈良県医師会学術奨励賞は、奈良県における若き医学徒の学術を奨励するために、奈良県医師会により贈呈される賞です。

平成 26 年 7 月 19 日に奈良県医師会館にて授与式が行われ、受賞された先生方に

は、賞状及び金一封が贈呈されました。

毎年 3 月頃に、各所属に応募案内を配布しています。若手研究者の方々への積極的なご応募をお待ちしております。



泌尿器科学 三宅牧人助教



精神医学 鳥塚通弘助教



内科学第二 太田浩世診療助教

## ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI (研究成果の社会還元・普及事業) を実施しました



7 月 26 日 (土)、8 月 2 日 (土) の両日、本学において「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI (研究成果の社会還元・普及事業)」を実施しました。



この事業は、研究機関で行っている最先端の科学の研究成果について、児童・生徒の皆さんが、直に見る、聞く、ふれることで、科学のおもしろさを感じてもらおうプログラムで、本学では、独立行政法人日本学術振興会の委託事業として採択を受け『心臓と血管の形づくりと病気～医学研究と診療の両面から～』(実施代表者：循環器システム医科学 中川修教授、7 月 26 日 20 名受講)と『命を産み出す子宮とそれを蝕む病～原因からその予防法を一緒に考えてみよう～』(実施代表者：産婦人科学 小林浩教授、8 月 2 日 19 名受講)と題して実施しました。

循環器システム医科学のプログラムでは、どのように心

臓や血管が形づくられるのか、また先天性心疾患や成人の心臓や血管の機能異常について、大学医学部で日頃行われている研究や診療を実際に体験することで、生命の尊さを学び、医学を身近に感じることができました。

産婦人科学のプログラムでは、子宮と卵巣の機能を学び、シミュレーション機器を用いて子宮で育つ胎児画像を見ることにより「子宮を大切に思う心」を芽生えさせ、その大切な子宮を奪いかねない子宮頸がんから「どのように守るか」を自ら考えました。

すべてのプログラムが終了した後、受講生一人一人に未来にはばたく知識を取得した証として、修了証書「未来博士号」が授与されました。



実習風景



## オープンキャンパス2014を開催しました

8月2日(土) 医学科、3日(日) 看護学科の日程でオープンキャンパスを開催しました。

今年は、2日はあいにくの雨模様となり、3日もスッキリしない天候ではありましたが、2日間で約1,000名と多数の方にご参加いただき、大盛況のうちに終わることができました。

2日の細井学長による講演は「世界トップレベルの医師をめざして」というテーマで、奈良医大の“現在”、そして今後奈良医大が目指す“方向性”や“将来”について講演されました。「奈良医大の最先端の研究や医療についてよく分かり、奈良医大に対するイメージが変わりました」「奈良医大の将来の姿が想像できました」など、参加者は、今後奈良医大が世界に向けて発展していく姿をイメージし、期待を膨らませ、感銘していたようです。



学長講演(細井学長)

また、3日の車谷副学長による講演は「看護のちから」というテーマで、看護学が始まった“原点”から、これからの“看護のあり方”について講演されました。「看護学の原点や歴史を知ることができ、改めて看護師への憧れが強くなりました」「看護という仕事がいかに大切なのかを学ぶことができました」など、看護学生や看護師になることを目指している参加者は、さらに思いが強くなっていったようです。

今年の『模擬ミニ講義』は、2日の病理診断学の大林教授による「がんの診断と治療」では、がんをテーマにした内容で、「がんについての研究内容や治療についてよく分かった」「病理という言葉は知っていたが、深く知ることができ、病理診断学に興味が出た」「講義内容はもちろん、大林教授の仕事に対する心構えが印象に残り、とても素敵でした」などの感想が寄せられました。

また、3日の老年看護学の水主教授による「百寿者の秘訣」では、長寿をテーマにした内容で、「今後、医療がもっと発達すれば人間は120歳ほど生きられると聞いて驚いた」「水主教授の“ストレスは人生最大のスパイスである”という言葉がとても印象に残った」などの声が聞かれ、両教授の講義により、参加者は、より医学・看護学に興味を持ったに違いありません。

本学在生に加え、本学附属病院の臨床研修医や看護師の卒業生に参加していただいた『先輩からのメッセージ』では、参加者は、受験や入学後の学生生活、そして卒業後の自分をイメージし

ながら、熱心に耳を傾けていました。先輩たちの熱いメッセージにより奈良医大のよさが受験生にしっかり伝わったと思います。

毎年盛況の『施設見学』では、日頃学生が実験や実習を行っている実験施設や実習室、また附属病院の高度救命救急センター、MRI、メディカルバスセンター等の各施設や病棟などを見学しました。2日の医学科の施設



医学科 先輩からのメッセージ

見学では、昨年11月にオープンしたばかりの新病棟にある放射線治療室で最新の放射線治療装置(リニアック)を見学し、参加者は担当の先生の説明を聞き、最新の設備を熱心に見入っていました。



看護学科 実習室(成人看護学)

『相談コーナー』では、本学の教職員、在学生及び卒業生が、入試のことから学生生活、また卒業後の仕事の様子などについて、受験生や保護者からの様々な相談に応じました。



医学科 相談コーナー

他には、本学が連携協定を結んでいる各大学のパネル展示や、栗田書店の協力による教科書展示コーナーなどを設け、担当者や学生が説明を行いました。

参加者への記念品として、「オリジナルバッグ」と「シャープペンシル」を配布しました。「オリジナルバッグ」は、本学の学生がデザイン・考案したもので、「デザインがおしゃれでかわいい」「実用的で普段も使えそう」などの感想が寄せられ、また、大学のロゴが入った「シャープペンシル」は、「受験勉強のモチベーションをあげるために使います」「このシャープペンシルを使って受験勉強がんばります」と好評でした。

オープンキャンパス開催にあたっては、学長、副学長をはじめ、対応いただいた各教職員、運営の手伝いをしてくれた学生ボランティアなど、多数の方々にご協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

## コンソーシアム実習2(早大・奈良医大連携講座)が開催されました

「先端放射線医療工学と生命科学」をテーマに、8月22日(金)から26日(火)まで、早稲田大学において、早稲田大学・奈良県立医科大学連携講座が開催されました。これは、早稲田大学と本学が2008年12月に結んだ協定に基づく連携事業として、隔年で開催校を代えて実施しているもので、早稲田大学での開催は今回で3回目となります。本学からは13名の学生が参加し、早稲田大学学生18名とともに、放射線を用いた医療工学の原理や最先端の生命科学研究について学びました。

講義は、早稲田大学教員と本学教員で行い、本学からは、第二内科学講座の木村弘教授と吉川雅則准教授のお二人にご出講いただきました。一方、早稲田大学からは、鷲尾方一教授、石山敦士教授、武岡真司教授、篠原邦夫客員教授、放射線医学総合研究所の野田耕司主任研究員がそれぞれ講義を担当されました。

講座期間中には、履修学生および教職員を交えた懇親会が開催されたほか、キャンパス施設や早稲田大学先端生命医科

学センター(TWIns)の見学も行われ、普段と違う雰囲気の中で専攻を異にする学生と交流を深める良い機会となりました。

参加した学生からは、「工学の視点から最新の放射線治療について学ぶ貴重な機会だった」「内容は難しかったがよい刺激になった」「法学部や建築学科といった他学部生と話をするとモチベーションの向上につながった」といった感想が寄せられました。



木村教授 講義



授業の様子

## 東日本大震災被災地の福島県内で学生がボランティア活動を行いました

本学の学生9名が平成26年8月18日(月)から23日(土)の間、福島県南相馬市等でボランティア活動などを行いました。仮設住宅での傾聴活動や福島県立医科大学での学生向け災害医療セミナーへの参加に加え、力仕事のボランティア活動も行い被災地で汗を流しました。

### 学生災害ボランティアバスに参加して 看護学科1年 津地 ひかり

福島に行くまで、私たち学生が行く意味があるのか不安な気持ちと、震災から3年半が経過した今の状況もわからない状態で参加しました。仮設住宅での傾聴活動では震災の話聞き、震災の恐ろしさ、被害の大きさを感しました。また、来てくださった方が「孫と話しているような気分で、来てくれて嬉しい」と言ってくださり、私たち学生が行く意味があるのだなと感じました。震災から3年半が経ちますが、津波

の被害で住宅が流されたままの状況が残っていたり、ガードレールが曲がったままだったり、震災の爪痕を目にしました。最近では原子力発電所のことしかニュースで取り上げられていませんが、津波や地震の被害はまだ残っていて、復旧・復興が進んでいないということを多くの人に伝えていきたいです。また、福島医大では災害医療について学び、将来医療従事者になったときどのようなことができるのかを考えさせられました。今後、学生災害ボランティアの一員として、学祭や勉強会を通して多くの人に震災に対し興味を持ってもらえるよう活動をしていきたいです。



災害医療セミナー



現地での作業の様子

## 白檀生祭開催案内

(2014年度白檀生祭実行委員会)

日時：10月24日(金)～26日(日)  
テーマ：「奈良医大ってどんなところ？」

今年も大学祭の季節が近づいてきました。例年以上に盛り上がるように学祭委員が趣向を凝らしたたくさんの楽しいイベントを開催いたします。



トークショーゲスト  
沢村 一樹さん

- **シンポジウム 10月25日㊥**  
第一部 12:00-13:30 「学生と語る檀原市のまちづくり」  
檀原市長・学長  
第二部 14:00-16:15 「DMATと災害 ～私たちにできること～」  
米盛病院救急科 畑倫明先生  
神戸学院大学現代社会学部社会防災学科  
教授 中田敬司先生
- **トークショー 10月26日㊥**  
16:00- 「沢村一樹トークショー」  
入場料：800円
- **進学相談会 10月25日㊥**  
午前の部 10:00-12:00  
午後の部 13:30-15:30
- **女子学生医療体験実習 10月26日㊥**  
13:00-17:00 「内科医のオシゴト」  
(主催：女性研究者支援センター)
- **献血 10月26日㊥**
- **ステージ企画 10月25日㊥・26日㊥**
- **模擬店・チャリティバザー 10月25日㊥・26日㊥**
- **展示 10月25日㊥・26日㊥**  
13:30-15:00 スキルスラボ(医療検査・手技の体験コーナー)

この他にも多くのイベントを予定しております。場所、企画等の詳細は奈良県立医科大学2014年白檀生祭HP (<http://kashifusai2014.jimdo.com/>) をご覧ください。

白檀生祭の運営にあたり、教職員・病院関係者の方々、同窓会、地域の皆様の多大なるご協力、ご援助をいただいております。この場をお借りして御礼申し上げますとともに、今後もより良い白檀生祭を目指して参りますので、何卒ご協力よろしくお願ひ申し上げます。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

# ～第66回西医体総合5位～ソフトテニス女子・空手道女子 準優勝

今年も西日本医科学生総合体育大会が開催されました。総合成績は10位で、ソフトテニス女子と空手道女子が準優勝し、硬式テニス女子、バレーボール男子、バドミントン女子、剣道女子、ハンドボールが上位の成績を収めました。

- ◆期 間：平成26年8月8日(金)～8月18日(月)
- ◆主 管：東海・北陸ブロック
- ◆代表主管校：金沢大学
- ◆参加大学数：計44大学
- ◆競 技 数：20

## 「チーム力で得た勝利」

剣道部 医学科 4年 川合 章仁

第66回西医体剣道部門は8月16、17日、金沢市総合体育館において開催されました。私達剣道部は本大会において女子団体戦第3位、男子団体戦ベスト16、女子個人第3位という成績を残すことができました。同会場で開催された西日本コメディカル剣道大会では女子団体戦優勝を勝ち取ることができました。

この1年間、西医体、西コメディカルの大会を大きな目標に据え日々励んできた稽古の成果を出すことができたと感じています。冬の非常に冷える床の上、夏の防具の中のむせ返るような熱さ、稽古は楽しいことばかりではなく、しんどいこと、辛いことも多々ありました。しかし、そのような心が負けそうになる時、声を掛け合い、互いに切磋琢磨し、部員皆で乗り越えることで、チームとしての力が大きく成長したと確信しています。そして何よりOB、OGの先生方に大きなご支援、ご指導を頂き、師範の先生に様々な教を賜り、今回の結果を掴み取ることができたと実感しています。

来年の大会では更に良い結果を残せるようこれからも部員一同頑張っていきたいと思っております。ありがとうございました。



ソフトテニス部 医学科 4年 藤本 侑花

第66回西医体ソフトテニス部門は、8月10～13日に兵庫県で開催され、私達は、女子団体戦で準優勝という結果を残すことができました。また、西医体の結果により、島根で開催された全医体にも出場でき、全医体では、団体戦4位という結果を残すことができました。

一戦一戦大事に、勝ちにこだわり、部員一丸となって、試合に取り組んでいったことが勝因であったと思います。

この結果は、部長の三笠先生をはじめとした、OB、OGの先生方のご指導、ご支援なくしては、なしえなかったことだと、深く感謝しております。幹部が交代して、体制も大きく変わることとなりますが、これからもよい結果を残せるように、部員一同、精一杯練習に励んでいきたいと思っております。



### 【団体】

競技名	成績
硬式テニス	男 3回戦敗退
	女 ベスト4
ソフトテニス	男 2回戦敗退
	女 準優勝
サッカー	2回戦敗退
準硬式野球	3回戦敗退
バスケットボール	男 2回戦敗退
	女 1回戦敗退
バレーボール	男 ベスト8
	女 2回戦敗退
バドミントン	男 2回戦敗退
	女 ベスト8
弓道	男 16位
	女 13位
柔道	男 ベスト16

競技名	成績
卓球	男 2回戦敗退
	女 2回戦敗退
水泳	男 14位
空手道	男 予選敗退
	女 準優勝
剣道	男 ベスト16
	女 3位
ハンドボール	ベスト8
ラグビー	2回戦敗退
ゴルフ	男 18位
	女 14位
合気道	段外の部 優秀演武賞
<b>総合</b>	<b>10位</b>

### 【個人】

競技名	種目成績
空手	女 花井志帆 形第3位 森ちひろ 組手第3位
	水泳 男 新美雄大 50m自由形優勝
バドミントン	女 吉川千尋 第3位
剣道	男 青木郁樹 第3位
卓球部	個人戦ダブルス 北岡・松山ペア 8位入賞
陸上	男 服部貴憲 走り高跳び5位
	女 藤本華奈 800m 3位 高由美 400m 5位 800m 3位

## クラブ紹介

柔道は「精力善用」「自他共栄」を基本とした教育的価値を含む武道スポーツです。

精力善用とは自分が持つ心身の力を最大限に使って、社会に対して善い方向に用いること、自他共栄とは相手に対し、敬意、感謝をすることで信頼し合い、助け合う心を育み、自分だけでなく他人と共に栄えある世の中にしようとするのであり、まさしく医療者に必要とされる精神です。そうした精神を鍛えることができるのが柔道です。

奈良県立医科大学柔道部は、将来の医療者としての心身の鍛練と、柔道を楽しむことを目的として日々活動しています。



### 柔道部

#### 「精力善用・自他共栄」

部員 ▶ 11名

顧問 ▶ 今村 知明 (健康政策医学教授)

主将 ▶ 村山 平和 (医学科4年)

練習日 ▶ 火、木の17:00~19:00

土の10:00~12:00

いま、日本の漢方医学が世界で話題になっています。西洋医学が苦手な分野を得意としているからです。昔から私たちのまわりにある漢方が、西洋医学と共存する形でまた見直されているのです。

私たち東洋医学研究会は基本的に漢方医学の勉強会を行っています。週に2回、昼休みに部員が持ち回りで講義を担当します。前期は高学年が担当し、後期は低学年が担当することで全員が勉強できるように工夫をしています。また学内だけでなく、外部のセミナーに参加したり、病院の漢方外来の見学をして勉強することもできます。

漢方の他にも、鍼灸、薬膳、アロマ、ハーブなど興味を持ったことには何でも挑戦しています。日々の活動を披露する場もあり、学会や学園祭などでの趣向を凝らした発表はいつも好評を得ています。

学年の途中から入部する部員が多いことも、東洋医学研究会の特徴です。いつでも新しい仲間を募集していますので、興味のある方は気軽に声をかけてください！



### 東洋医学研究会

#### 「一周回って最先端！」

部員 ▶ 49名

顧問 ▶ 藤本 眞一 (教育開発センター教授)

部長 ▶ 辻本 憲広 (医学科3年)

活動日 ▶ 火・木の昼休み

## 図書館だより

### 検索マスターへの道 (第2回)

ある疑問に対し、医学情報データベースでどのように検索したのかを解説するシリーズです。

今回のお題は「糖尿病患者のフットケア取得を目指す指導方法の検討」です。こちらのお題は、看護部の文献検索実習で使用しました。お題は本学看護部紀要『葦』40号よりピックアップしました。『葦』の40号は本学機関リポジトリGINMUでご覧いただけます。

なお、これらの検索結果は2014年8月26日時点のものです。

医中誌 Web を使って検索します。まず、キーワードを抽出します。「糖尿病患者」、「フットケア」、「指導方法」というキーワードで一度検索してみます。

#1	糖尿病患者/AL	37,227
#2	(フットケア/TH or フットケア/AL)	3,809
#3	指導方法/AL	1,721
#4	#1 and #2 and #3	5

5件とかなり少ない検索結果になりました。検索式を見てみると、「フットケア」にはシソーラス (TH= 統制語) がついているのに、「糖尿病患者」や「指導方法」にはついていないことがわかります。5件の検索結果からこの疑問に適合した文献を見つけ出し、詳細表示にしてみます。どのようなシソーラスが文献につけられているでしょうか。

【そこが知りたい糖尿病ケアQ&A 臨床現場からの質問に答えます】糖尿病患者のケア 高齢者に対するフットケアの指導方法について教えてください(白癩と感染を繰り返し、壊瘍になるケースがあるので)	
Author:	紀後 蓮子(京都府立医科大学附属病院)
Source:	ナーシングケアQ&A(1349-0869)21号 Page144-145(2008.05)
論文種類:	Q&A/特集
シソーラス用語:	糖尿病; *高齢者看護; *患者教育; 抗真菌剤(治療の利用); *糖尿病(看護); *白癩-足部(薬物療法,看護); フットケア
医中誌フリーキーワード:	*糖尿病教育
チェックタグ:	ヒト; 看護

「フットケア」のほかに、「患者教育」や「糖尿病」といったシソーラスがつけられていることがわかりました。これらのキーワードで検索してみます。

#1	(糖尿病/TH or 糖尿病/AL)	256,019
#2	(フットケア/TH or フットケア/AL)	3,809
#3	(患者教育/TH or 患者教育/AL)	71,349
#4	#1 and #2 and #3	550

550件と最初の検索からかなり増えた結果になりました。ただ、何百件もあるとタイトルを見るだけでも大変です。そこで、もう少し検索結果を絞り込むために、先ほど見た詳細表示のシソーラスに注目します。赤丸をつけたキーワードにはどれも「\*」がついています。これはこの論文につけられているシソーラスのうち、特に重要な統制語=メジャー統制語を表しています。メジャー統制語で検索すると、このキーワードを重要としている論文が検索できますので、このメジャー統制語を使って検索してみましょう。メジャー統制語で検索するには、シソーラスにつける「/TH」を「/MTH」にします。

#1	糖尿病/MTH	92,938
#2	フットケア/MTH	2,213
#3	患者教育/MTH	26,133
#4	#1 and #2 and #3	97

3つを掛け合わせると97件と、タイトルだけをざっと見るには十分な件数がヒットしました。このように、検索キーワードを変えただけで検索結果が大幅に変わりますので、検索結果を見ながら

キーワードを検討してください。

医中誌の便利な機能の一つに、絞り込み機能があります。そのうち、よく使うのは「会議録を除く」という絞り込みです。会議録とは、学会等の抄録集のことです。新しい分野や症例の少ないもので発表されている論文の総数が少ない場合は会議録も参考になるかと思いますが、通常は除いて件数を絞ることをオススメします。論文種類を意識せずに検索していると、「せっかく参考になりそうなものを取り寄せたのに会議録ばかり」ということになりますので、ご注意ください。

論文種類の絞り込み方法として、「解説」や「総説」に絞り込むこともできます。これは、どのようなケアかわからないものや、どういふ疾患か知りたいというときに役立ちます。参考書にあたってみるのももちろんですが、医中誌で調べると、雑誌の特集記事などコンパクトにまとめられた解説を読むことができます。特に看護分野の商業誌はイラストを多用しわかりやすく書かれていますので、「解説」に絞ったものをさらに看護文献に絞り込むと読みやすい論文が多く検索できます。

今回は医中誌での検索事例をご紹介します。最終的に何件になったら正解ということはありません。自分の求めているような論文がなるべくたくさん検索できるように、キーワードや絞り込み方法を工夫し、結果を見ながら検討してみてください。

### 図書館ちよこっとニュース

#### ●開館時間が午後12時まで延長

かねてからご希望が多く寄せられていた図書館の開館時間延長が実現しました。2014年8月1日より、開館時間が従来の午後10時までから午後12時までと2時間の延長になり、部活やアルバイトの後でもご利用いただけるようになりました。守衛さんの見回りはありますが、基本的にはスタッフのいない無人開館時間ですので、身の回りの貴重品には十分にお気を付けください。また、マナーを守ってご利用いただけますようお願いいたします。大声で騒ぐ、館内で飲食をするなど、マナー違反がひどい場合は開館時間延長の取りやめを検討することがあります。みなさんで気持ち良くご利用いただけるよう、ご協力よろしくをお願いいたします。

#### ●共通入館に注意

無人開館時に図書館を利用するときは学生証や入退館カードが必要で、最近、学内者がロック解除した際に部外者が図書館に入り込んでしまうといった事例がありました。複数名で入るタイミングが重なることもあるかと思いますが、かならず個人での入館をお願いいたします。また、無人開館時は退館にもカードが必要ですので、ご自身のカードを必ずご持参いただきますようお願いいたします。

#### ●ないとちゃんフォローまもなく80人に

当館の広報担当キャラクターないとちゃんがTwitterをやっているのをご存知でしょうか？ないとちゃんは、館内PCの利用状況や図書館点検・工事など、タイムリーな情報を日々つぶやいています。昨年までは誰もフォローせず情報発信のみでしたが、今年からフォローやリツイートもするようになると、フォロワーが一気に増え、まもなく80人というところまで来ました。ないとちゃんに問いかけると、返事があるかも！？ぜひフォローしてみてください。ちなみに、図書館ではTwitterのほかにブログやニュースレターでも情報を発信しています。

【ないとちゃん Twitter アカウント: @naito\_nmu】

## エンドトキシン研究から 見えてきたもの

第三内科学 教授 福井 博



私のエンドトキシン (Et) への興味は医師になって間もなく担当した大酒家の急性化膿性閉塞性胆管炎の経験に端を発します。内視鏡的ドレナージ術もなかった当時、Et ショックから DIC、腎不全を併発された患者さんを助けることができた経験は大きく、恩師の辻井正教授から急性肝不全の凝固線溶動態という課題をいただいたことで Et への興味はさらに深まりました。

Hepatology 誌 1 巻に掲載された Nolan 教授の spillover endotoxemia の概念に心惹かれ、フンボルト給費研究員として 1986 年にドイツに留学した時は迷わず血中 Et 測定をテーマとしました。アルコール研究で名高い Bode 教授御夫妻にドイツ流の研究姿勢を教わりましたが、それは自ら確信が持てるようになるまで基礎固めを徹底して行うというもので、スタンダードの設定、血液処理、kinetic assay など、課題を 1 つずつ克服しながら、積み上げて行くものです。ものを正確に測るというのはこういうことなのかと実感しました。血中処理の苦勞が実を結び、隠れていた Et を捉えることができた時、日頃は厳しい生化学者の Bode 博士 (夫人) の目に涙が光ったことを懐かしく思い出します。「私が長い間信じていたことを貴方は見事に証明してくれた。」と喜んでいただき、一気に苦勞が報われた瞬間でした。

しかし、私たちが見いだした事実はわが国の研究の流れには反するものであり、案の定、帰国後は徹底的に叩かれました。国際誌に発表を重ねましたが、私の成績はわが国では見事に無視され、Et 測定法は感度の低いまま現在に至っております。わが国の臨床家が Et に対する興味を失ってしまった原因はここにもあると思います。一方、欧米では血中 Et の存在を前提に科学が進み、肝病態を腸肝関連の観点からみる動きも加速化しております。

私は Et の体内分布や血中存在様式について標識 Et を用いて地味な研究を続けておりましたが、生体内各種細胞に Et に反応する Toll-like 受容体 4 (TLR4) が存在することが証明され、自然免疫研究の興隆とともに私たちの研究領域に光が当たるようになりました。急性肝不全病態の TLR4 解析、TLR4 作動薬の効果に関する私たちの成績は欧米で注目されました。

2010 年に Nolan 教授が Hepatology 誌の総説でわが国から唯一、私の仕事を引用していただいたことはささや

かな喜びです。研究が時流に乗るかどうかは時の運もありますが、ひたすら真理を追究することの大切さを教えていただいた Bode 教授夫妻には本当に感謝しております。

Et は地味な研究領域のように見えますが、腸肝関連を担う主役であり、各種病態にかかわります。私のもう 1 つの研究領域に腹水、肝腎症候群があり、長年病態解析を重ねてきましたが、Et は肝硬変の循環動態、腎障害、消化管出血、脳症などと密接に関連します。bacterial translocation により門脈経由で肝に到達した Et が Kupffer 細胞でうまく処理されないと星細胞に働いて線維化や血管新生が進むと考えられ、これは教室の主要テーマの 1 つである肝線維化や発癌の問題とリンクしました。一方で凝固障害のテーマは藤村吉博教授のご指導と亡友植村正人教授の多大な努力により、ADAMTS13 の動態研究につながりました。ここでも ADAMTS13 や VWF を動かし、血小板血栓を惹起する重要な因子として Et の関与が考えられました。腸内環境と肝病態との関連は今教室をあげて取り組んでいるところです。Et を指標として、腸肝軸の制御が肝病態の改善につながるか、肝硬変の病態改善はもちろんですが、もっと早期の肝病態の進展予防にも寄与しうるか等々、これからの教室の研究成果にどうぞ期待ください。

私のこうした歩みは大きなライフワークにつながりました。それは日本消化器病学会の要請を受けて世界初のエビデンスに基づく包括的肝硬変診療ガイドラインを作るというものです。作成委員長として 2010 年に初版を上梓し、現在その改訂版の作成に没頭しているところです。その作業中、腸管関連の解明と制御が将来の肝硬変診療の要となることを確信するに至りました。

1 人の患者さんとの出会いが発端となった Et 研究ですが、今後の肝硬変診療に是非役立てたいと願い、教室の人達と充実した日々を送っています。

## 産学官連携だより

### ■シーズ集改訂版の発行について

産学官連携は、大学において【創造】された研究成果を知的財産として適切に【管理】し、産学官連携活動を通じて社会に【還元】して役立てることであると言えます。



産学官連携活動によって図のような知財サイクルを生み出し更に発展させるため、本学では、平成23年度より毎年シーズ集を発行しており、今年度も10月に改訂版を発行します。シーズ集は、本学に在職する研究者とその研究活動に関する情報を広く社会に紹介し、本学の知的財産を産学官連携活動に有効に活用することを目指し作成しています。シーズは本学のHPに公開される他、近畿経済産業局HP上にも掲載され、冊子版は公的機関や企業の研究開発部門等にも配布します。

大学は自ら事業化が出来ませんので、研究成果を社会に【還元】するためには、企業等との連携が不可欠ですが、大学が何を研究しているのかわかっていただくことから始まります。シーズ集は本学と企業等を結び架け橋の役割を果たしてくれるものです。

本学では、シーズ集の発行以外にも、学内の研究者の技術を発信するため、産学官のマッチングイベントに出展を行っています。今年度これまでに開催したイベントを報告します。

### ■けいはんなビジネスメッセ

7月25日(金)、けいはんな地域における企業や研究機関が研究成果の事業化や連携、取引を促すため、けいはんな学研都市において「けいはんなビジネスメッセ」が開催されました。今年で9回目の開催となり、奈良県、京都府、大阪府などの企業や大学、団体等123ブースが出展し、本学も昨年に引き続き出展を行いました。1,595名の来場者数があり、

本学出展ブースにも多数の人が訪れました。本学の研究成果を紹介するとともに、他の出展を行っている企業等との交流・情報交換を行いました。



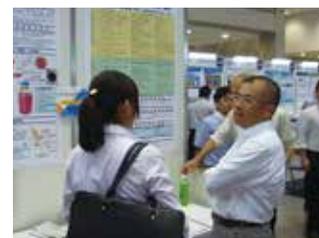
出展ブースの様子

### ■イノベーション・ジャパン 2014

#### ～大学見本市&ビジネスマッチング～

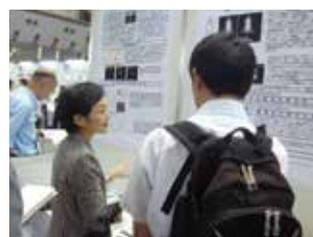
9月11日(木)・9月12日(金)の2日間、東京ビックサイトにおいて、大学や公的機関等から創出された研究成果の社会還元、技術移転を促進すること及び実用化に向けた産学連携のマッチング支援を実施することを目的として開催されました。

本イベントは、独立行政法人 科学技術振興機構 (JST) が選りすぐった大学等から創出された研究成果の社会還元、技術移転を促進すると共に産学連携を支援するための技術シーズの見本市です。出展に際しては事前審査があり、本学からは下記の3件が採択され、当日は採択者がブースで来場者の企業



酒井教授説明の様子

にポスターやサンプルを用いてシーズ解説を行いました。本学ブースには多数の企業等関係者が訪れ、名刺交換等、活発な産学官交流を行いました。また、化学・



西教授説明の様子

酒井教授は展示ホール中央のJSTブースにおいて多数の聴講者に対し「人工赤血球(ヘモグロビン小胞体)製剤の新しい利用法」と題してショートプレゼンを行い、こちらもプレゼン終了後多数の企業等から質疑を受け、名刺交換を行いました。今後、これらの企業等とマッチングが生まれることが期待されます。



刀根特任助手説明の様子

酒井教授は展示ホール中央のJSTブースにおいて多数の聴講者に対し「人工赤血球(ヘモグロビン小胞体)製剤の新しい利用法」と題してショートプレゼンを行い、こちらもプレゼン終了後多数の企業等から質疑を受け、名刺交換を行いました。今後、これらの企業等とマッチングが生まれることが期待されます。



酒井教授によるショートプレゼンテーション

#### 【出展内容 分野：医療】

- 「人工赤血球(ヘモグロビン小胞体)製剤の新しい利用法」  
化学 教授 酒井 宏水
- 「長残光蛍光体ナノ粒子を用いた無励起光バイオイメージング」  
第一解剖 教授 西 真弓
- 「疾病予防を目指した概日リズム改善装置の開発」  
産学官連携推進センター 特任助手 刀根 庸浩

## 解剖慰霊祭を挙りました

平成 26 年 9 月 18 日 (木) 午後 3 時から大講堂において、第 68 回解剖慰霊祭が執り行われました。系統解剖及び病理解剖に貴重なご遺体を提供していただいた方々のご遺族や、献体登録を申し出ている奈良医大白菊会会員、来賓の方々、教職員、学生等、合わせて約 500 名の方々が参列されました。

今年は新たに、系統解剖 43 柱、病理解剖 34 柱の計 77 柱の御霊を加えて、6,193 柱の御霊をお祀りさせていただきました。参列者全員の黙祷の後、学長の祭文奉読、学生を代表して医学科 3 年生総代の浅井祐志さんの感謝文奉読、2 年生総代の三好智浩さんの献花、参列者の献花と続き、最後に学長からのお礼の挨拶により終了しました。

医師、看護師を志す者にとって解剖実習を通じ人体の構造を知ることが避けて通れない道です。尊い意思を持ち、

医学の発展と医学教育のために自らの体を捧げてくださった方々の崇高なご遺志に改めて深い感謝の意を表しますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。



御礼の言葉を述べる細井学長

## 実験動物慰霊祭を挙りました

実験動物慰霊祭が 9 月 22 日 (月) に執り行われました。本行事は実験動物の尊い生命に対し、哀悼の意を表すもので、毎年実施しています。

学長の祭文奉読後、多くの関係職員及び学生が献花を行いました。

私たち生命医学に携わる者は、動物の生命を尊重する必要がありますが、やむなく動物実験を必要と判断したときは、動物に対して博愛的な敬愛を払うという道徳上の義務を失うことなく、犠牲になる動物数の削減に努め、動物の生命から得られた貴重な情報を研究成果として広く社会に還元できるよう努めなければなりません。



祭文を奉読する細井学長

## 医療倫理講習会を開催しました

8 月 18 日 (月)、医療倫理講習会を開催しました。

この講習会は、「臨床研究に関する倫理指針」に規定される“研究者は、臨床研究の実施に先立ち、臨床研究に関する倫理その他臨床研究の実施に必要な知識についての講演その他必要な教育を受けなければならない。”の一環として開催しました。

また「医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令」(GCP 省令)における治験責任医師等の教育・訓練も兼ねて行われました。

講師には、米田弁護士法律事務所の弁護士で、大阪大学治験審査委員会委員であり、本学の医の倫理委員会の委員でもある鶴岡万貴子先生をお招きし、「IRB 委員の経験からみた、研究者に求められる倫理」と題してご講演いただきました。

今後も年 1～2 回程度開催し、本学研究者の倫理的観点の更なる向上につなげていきたいと思っております。



参加者から多くの質問も出されました

※当該指針は下記 URL からダウンロードできます。  
<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/index.html>

### 「医の倫理委員会」からお知らせ

医の倫理委員会開催月日

原則として偶数月の第 3 月曜日 13:30～

※開催日、申請書の締め切りは学内一斉メールで送信いたします。

## 女子中高生の理系進路選択支援プログラム 「いのちを支える医理系研究って、やってみたい!」を開催しました

女性研究者支援センターでは、(独)科学技術振興機構「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の採択を受け、女子中高生を対象に医理系研究の面白さを伝え、将来の医理系進路選択を促すためのイベントを開催しています。

このイベントは、医理系分野の多様性を紹介するミニレクチャー、ロールモデルとなる女性研究者による講演、実験・実習、サイエンスカフェの4部構成となっており、近隣大学等の協力も得ながら全5回開催します。7月22日に、第1回「あなたは重力を感じていますか?」を開催し、地域健康医学教室岡本希講師による健康寿命に関する講演と、第一生理学教室和田佳郎講師による重力と耳の関係について考える体験実習を行い、8月19日には、第2回「あなたを守るミクロの戦士」で、近畿大学農学部水産学科永田恵里奈講師による水産分野での微生物研究に関する講演と、本学微生物感染症学教室水野文子講師による口腔内の細菌を染める体験実習を実施しました。

9月7日には、第3回として「外科医になってみよう!」と題して滋賀医科大学貝田佐知子特任助教による講演と本学産婦人科学教室吉田昭三講師による結紮・縫合やガウンテクニックの臨床手技実習を実施しました。



第2回近畿大学水産学部永田講師による講演



第3回ガウンテクニック実習の様子

各回には本学医学科学生もティーチングアシスタントとして参加し、実習の指導だけでなく身近なロールモデルとして女子中高生からの様々な質問に親身に答える姿も多く見られました。

終了後の女子中高生のアンケートからも「普段できない体験ができて楽しかった」、「今回の取組みに参加することで、理系に進むことをさらに後押しされた」といった満足度の高い声が多数挙がっていました。

なお、第1回開催の様子が7月22日放送のNHK総合の「ならナビ」及び奈良テレビの「県政フラッシュ」において紹介されました。

### ～今後のイベント開催予定～

10月26日(日) 第4回「内科医のオシゴト」

11月30日(日) 第5回「ドキドキバクバク測ってみよう!」

## 第2回大和漢方医学薬学セミナーを開催しました

9月11日(木)に臨床第一講義室において、本学と株式会社ツムラの共催で第2回大和漢方医学薬学セミナーを開催しました。指導医を対象に実施した昨年11月のセミナーに続いて2回目ですが、今回は「医師・薬剤師のための漢方セミナー」として医師、薬剤師、その他の医療者向けに分かりやすく、明日から使える漢方薬を紹介する内容で実施しました。

細井学長(大和漢方医学薬学センター長)の挨拶に続いて、渡辺賢治特任教授(副センター長)から「明日から役立つ漢方処方」と題した講演が行われ、高齢者医療における漢方の役割や風邪の症状や時期ごとの漢方薬処方の説明、花粉症、便秘、胃痛など症状毎の適切な処方なども実例を交えながら分かりやすく解説されました。また、番外編として二日酔いや疲れをとるの

に良い漢方薬の紹介もありました。

当日は医師・薬剤師・製薬会社など約110名の参加があり、質疑では、実際に漢方薬を処方されている先生方からの実践的な質問など活発なやりとりがあり、セミナー終了後も講師を囲んでのやり取りが続くなど、好評のうちに終了しました。

大和漢方医学薬学センターでは今後もこのようなセミナーを開催し、漢方医学薬学の周知を進めてまいります。



講演中の渡辺特任教授(大和漢方医学薬学センター 副センター長)



## 5名の留学生を受け入れました

社会医学研究会では、部活動として、ボランティアやぬいぐるみ病院の他に国際交流も行っております。今夏は、国際医学生連盟の留学制度によって、カナダ、ハンガリー、チュニジア、イタリア、ポーランドから各1名、計5名の留学生を本学で受け入れました。

奈良医大の参加している国際医学生連盟 (International Federation of Medical Students' Associations: IFMSA) は、医学生のために医学生によって運営される学生NGOです。歴史は長く、1951年5月に設立され、現在、108カ国に上る加盟国を有する世界最大の学生団体です。その留学制度には、基礎交換留学プログラムと臨床交換留学プログラムがあり、留学先の大学で1ヶ月間の基礎研究または臨床病棟実習に参加します。

今回の留学生5名のうち2名は基礎交換留学であり、第1生理学教室および精神科学教室での研究に参加しました。残り3名は臨床交換留学であり、先生のご指導のもと、複数の診療科での実習に参加しました。日本の医療は世界的に優れたものであり、本学もその例外ではありません。留

学生の本学に対する評価は高く、特にIVR (Interventional Radiology) の技術は注目を集めていました。

留学生は研究や実習に参加するだけでなく、本学の学生との交流も積極的に行いました。ホームステイや観光を通して留学生と親交を深めることは、異文化に触れ、世界に目を向ける良い機会となり、多くの刺激を得られます。今後も多くの留学生を本学で受け入れ、交流を深めていきたいと考えております。



姫路城にて

## 「情報セキュリティ研修会」を開催しました

### 総務課 情報推進係

情報セキュリティポリシー策定に伴い、平成26年8月6日(水)、平成26年8月13日(水)、平成26年9月3日(水)、平成26年9月17日(水)計4回の情報セキュリティ研修会を開催しました。

研修会では、まず本学の情報セキュリティ委員長(林副理事長)から、7月に情報セキュリティポリシーを策定したことを受け、今年度の事務部門を皮切りに、来年度は教育・研究部門、再来年度は附属病院部門と、3ヶ年かけて順次全学で情報セキュリティ対策を講じていく旨の冒頭挨拶がありました。

次に、事務局担当より、「情報セキュリティポリシー策定にあたって」と題して、情報セキュリティ対策と個人情報に関する現状やこれまでの経緯について概説があり、情報セキュリティ意識の向上及び情報セキュリティマネジメントの重要性について解説がありました。

また、富士通エフ・オー・エム株式会社から堀健太郎氏を講師として迎え、「情報管理に関する基礎知識」をテーマに、業務情報の紛失や漏えいの経路及び対策等について、具体的な事例を交えてわかりやすく講演をしていただきました。

研修参加者にとっては、法令遵守の観点も含め個人情報

保護と情報セキュリティに対する認識を改め、今後どのような行動を取るべきか考える機会となり、大変有意義な研修会となりました。

4日間で1,000名を超える参加者がありました。



講演する富士通エフ・オー・エム(株)堀健太郎氏



満席となった研修会場

## 特別支援学校生徒の職場実習を受け入れています

### 総務課 人事係

昨年度に引き続き、本年度も特別支援学校生徒の職場体験実習を実施しました。

今回は、7月28日(月)から8月1日(金)まで県立高等養護学校生徒2名、8月25日(月)から8月29日(金)まで県立高等養護学校生徒1名、9月8日(月)から9月12日(金)まで県立西和養護学校生徒1名が実習を行いました。

実習の内容は、病棟での清拭用タオル畳み、給茶機の清掃、患者用車椅子清掃、点滴支持台の清掃、薬剤部での患者用説明書の折り込み作業、禁煙パトロール、各所属より回収した不要書類のシュレッダー、また、実習生のうち1名は、なかよし保育園での園児用おもちゃの消毒、園内の清

掃等の保育補助作業を実習メニューに組み込みました。

夏場の屋外での作業も多く、立っているだけでも暑さにより体力を奪われる状況の下、これらの多岐にわたる作業を、熱心に黙々と取り組む姿を見て、こちらの仕事に対する姿勢を再度見つめ直す良い機会となりました。

また、8月2日(土)、3日(日)に本学で開催しましたオープンキャンパスにも、県立高等養護学校の1年生の生徒2名、県立西和養護学校の1年生の生徒2名が、職場体験実習として、受付、資料配付、施設見学への同行などを行いました。

本学においては、今後も障害者に対する理解を深め、共に働き、共に生きていくことを目的に、雇用機会の拡大に努めてまいりますので、皆様のご協力をお願いいたします。



## 不当要求防止に関する研修会を開催しました

### 総務課 総務係

9月2日(火)と9日(火)の2日間、奈良県警察本部の岡山課長補佐、橿原警察署の久禮係長を講師としてお招きし、不当要求への対応力を高めることを目的とした研修会を開催しました。

参加者は両日合わせて300人を超えるほどの盛況ぶりとなりました。

お二人の講師からは、クレーマーに対しては個人ではなく組織として対応することが重要であり、そのために日頃

の準備が大切であることや対応の際の注意点などについてのご講演を頂きました。

また、具体的な事例が収録されたDVDも上映され、実際の場面を想定しながら学ぶことができる大変わかりやすいものでした。

参加者からは、「内容はとてもわかりやすかった」、「このような研修を継続してほしい」、「さらに踏み込んだ内容の研修も受けてみたい」など、前向きなご意見を多数頂き、皆さんの関心の高さが伺われました。



岡山課長補佐



久禮係長



研修会の様子

## 平成26年度前期公開講座「くらしと医学」を開催しました

### 総務課 総務係

26年度前期の公開講座を、9月20日(土)に奈良県橿原文化会館 大ホールにて開催しました。

平成6年度から始まったこの講座も、今回で33回目となり、今回の会場である橿原文化会館での開催も13回目となりました。

当日は、約500名と多くの聴講者を得て次のとおり進められました。



細井学長あいさつ

#### ●細井学長あいさつ

#### ●講演

- ①堀江 恭二教授 (第二生理学)  
「細胞の不思議な力と再生医療」  
(座長：浅田 秀夫教授)



堀江教授

- ②緒方 奈保子教授 (眼科学)  
「元気な高齢者のひけつを  
目から科学する」  
(座長：浅田 秀夫教授)



緒方教授

- ③浅田 秀夫教授 (皮膚科学)  
「いたみを伴う皮膚の病気  
～帯状疱疹～」  
(座長：緒方 奈保子教授)



浅田教授

聴講者はメモを取るなど、熱心に聞いていました。また、日ごろの悩みなど、多くの質問もありましたが、演者の適切な回答に納得していました。

公開講座は、本学の地域貢献の一環として、「くらしと医学」をテーマに、広く県民の方に、医学・看護学の知識を解りやすく解説し、日々の暮らしに役立てていただくことを目的としています。26年度後期の予定は下記のとおりです。



会場の様子



### ～次回公開講座の予定～

- 日時：平成27年3月14日(土) 13:00～15:30
- 会場：奈良県文化会館 国際ホール
- 講演：①吉川 正英教授 (病原体・感染防御医学)  
「寄生虫今昔物語」  
②長谷川 正俊教授 (放射線腫瘍医学)  
「最先端の放射線治療で  
がんを切らずになおす」  
③脇田 満里子教授 (母性看護学)  
「みんなで支える子育て、孫育て」

## なかよし保育園保護者会から絵本を寄贈いただきました

### なかよし保育園 園長 岡山 弘美

当園の子どもたちは絵本がとても好きなので、これまで絵本に触れる機会をできるだけ多く設けるようにしてきました。

子どもたちは保育士が読み聞かせをするとキラキラした目をして興味津々に話を聞いてくれます。また字が読める子は自分で好きな絵本を探して読んでいますし、まだ字の読めない子はさし絵を見てお話をしてくれる子もいます。

言うまでもないことですが、絵本は子どもたちの情操を育み、創造力を豊かにしてくれます。

今、テレビやDVDでは華やかで刺激的で楽しい番組やソフトがたくさん出ています。当園にもそういったコンテンツの好きな子は多いようです。

一方、絵本ではストーリーが文字や言葉、そして絵でしか伝わらないものです。しかし読み聞かせでは読む人の声の

調子や速度でお話の印象が大きく変わり、その時々によって色々世界が広がります。また自分で絵本を読むと自分なりの世界も作り出せるものです。

この度、保護者の方々からたくさんの絵本をいただきましたので、子どもたちが絵本に触れることができる機会が一層増えます。これからも保育の中でもっともっと絵本に出会う機会をつくりたいと思います。そして創造力と感性が豊かな子どもたちが、なかよし保育園で育てられることを期待しています。

保護者の皆様ありがとうございました。



いただいた絵本と感謝状

## 周術期管理センターを開設しました

### 周術期管理センター長 川口 昌彦

急性期病院においては経営的側面や医療集約化の観点から、手術件数が著しく増加してきています。多忙な医師が均一な周術期管理を提供するためには、周術期管理センターにて提供できる医療やサービスをもれなく実施できる環境を整えることが重要になっています。米国麻酔科学会においても Perioperative surgical home (PSH) という医療モデルが構築され、その実施を目指しています。これは、手術が決定した段階から、患者さんを中心に必要な医療やサービスを多職種により提供しようとするものであります。外科医、麻酔科医、歯科医、看護師、薬剤師、理学療法士、臨床工学士、歯科衛生士、管理栄養士、メディカルソーシャルワーカーなどが共同でチーム医療にあたり、周術期合併症の軽減、入院期間の短縮、患者満足度の向上と医療コストの削減を目指します。本邦でも周術期管理チームの推進が盛んで、本年より周術期認定看護師も認定されるようになってきました。奈良県立医科大学附属病院においても周術期管理センターを立ち上げ、その活動が開始されます。本年の秋には手術室の東側に周術期管理センター

が設置される予定です。現在、外科医、麻酔科医、歯科医、看護師、薬剤師、理学療法士、臨床工学士、歯科衛生士、管理栄養士、メディカルソーシャルワーカーで集まって、その運用についての整備を始めています。手術が決定した段階で、周術期管理センターを受診していただき、早期からリハビリテーション、口腔ケア、栄養管理を行うことで合併症の軽減と早期回復を目指します。可能な限りクリニカルパスを充実させ、漏れのない均一な医療を提供できる基盤を作りたいと思います。また、薬剤師が介入することで医療情報の共有化と安全な医療が提供できる土台を構築したいと思います。患者さんの様々なニーズに対応できるようにスタッフ全員で取り組んでいきたいと思っています。術後1カ月までのフォローを全例で実施することで、当院における臨床指標・質の指標などを評価し、よりよい周術期医療が提供できるようにフィードバックしていきたいと考えています。奈良県立医科大学附属病院が安心して手術を受けられる病院として、患者さんから選んでもらえるような、患者中心の医療体制を構築していきたいと思っています。御協力の程、よろしくお願いいたします。

## IVRセンターを開設しました

### IVRセンター長(放射線科 教授) 吉川 公彦

平成26年7月1日(火)よりIVRセンターが開設され、センター長を務めさせていただくことになりました。

IVRとは[Interventional Radiology]の略で、エックス線透視像やCT像、超音波像を観察しながら体内に細い管(カテーテルや針)を入れて病気を治す新しい治療法で、「放射線診断技術の治療的応用」、「画像誘導下治療」、「血管内治療」とも呼ばれています。

IVRは手術を必要としないため、体への負担が少なく、病気の場所だけを正確に治療することができます。高齢者や状態の悪い進行癌を含めた癌の治療に広く応用され、緊急状態(大出血など)からの救命や、血管などの閉塞、動脈瘤に対する治療にも有効です。

奈良はIVR発祥の地です。奈良医大では放射線科を中心に、関係各科の先生方のご理解とご協力により、全国に先がけて肝細胞がんに対する動脈塞栓術(TACE)や胆管や消化管、閉塞性動脈硬化症に対するステント治療を行い、心臓血管外科のご協力の下、大動脈瘤に対するステントグラフト治療、さらに分枝血流の温存が可能な窓付ステントグラフトなど、種々のIVRを開発・施行し、各種の治験も行い、全国への普及につとめ、トップレベルの症例数と内容を誇っています。平成26年6月5-7日には奈良市で第43回日本IVR学会総会を開催し、1,634名と過去最高の参加者が出席され、盛会裏に終えることができました。

現在、脳神経外科の先生方と協力し、頸動脈ステント治療や脳動脈瘤や動静脈奇形に対する塞栓術も積極的にを行い、一方、冠動脈閉塞や不整脈に対しては循環器内科の先生方が積極的にカテーテル治療を行い、すぐれた治療成績をあげています。今後、さらに新しいIVRとして経皮的動脈弁留置術(TAVI)や外科手術とのハイブリッド治療、悪性腫瘍に対する凍結療法や難治性腹水、骨転移に対する緩和を目的としたIVRも注目されています。このような奈良医

大の特色の一つであり、今後も更なる発展が期待されるIVRを関係各科との密な連携と協力・参加の下、高い精度を維持しながら効率的に行うために、IVRセンターが設立されました。

IVRセンターは関係各科の先生、診療放射線技師、看護師、臨床工学技士、事務職員で構成され、看護師のうち10名はIVR学会とCVIT(日本心血管インターベンション治療学会)が認定するIVR専門看護師(インターベンションエキスパートナース)(英語表記: Intervention Nursing Expert; INE)の資格を有しています。血管造影装置が5台設置され、日夜、迅速かつ質の高いIVR診療に取り組んでいます。

今後はすぐれた人材の育成を目的として、シミュレーターなどを用いた独自の研修プログラムによる教育システムを確立するとともに、臨床のみならず各種デバイスや塞栓物質の開発・改良などIVRに関する基礎的研究も見据えた総合的なセンターを目指していきたいと考えています。

これからの超高齢化社会を迎え、IVRの果たす役割が益々増える中、今後もIVRセンターのスタッフが丸となり、さらなるIVRの発展と普及に向けて日々研鑽に励みたいと思いますので、関係各位のご指導とご協力を宜しくお願い申し上げます。



IVRセンタースタッフ

## 附属病院に国産花きを設置しました

### 病院管理課 病院総務係

花き産業及び花き文化の振興を図り、もって花き産業の健全な発展と心豊かな国民生活の実現に寄与することを目的として、本年6月、「花きの振興に関する法律」が成立しました。

これに伴い、国や地方公共団体は、公共施設やまちづくりにおける花きの活用に努めるとともに、花きの人を癒やす効果が十分に発揮できる病院等の施設においても、その活用の促進に努めることとなりました。

本院としても、県及び奈良県花き植木農業協同組合の連携のもと、B・C棟玄関周辺に植木を設置し、来院される方

や入院患者さん、職員の皆さんに癒やしを与えるとともに、花き産業及び花きの文化の振興に関する取り組みを行うこととしました。

植木の設置期間は10月から6ヶ月間の予定ですが、その間にも、品種が2ヶ月ごとに変わる予定です。

皆さん楽しみにして下さい。



B・C棟玄関

## 針刺し・切創及び皮膚・粘膜曝露事故の防止にむけて

### 感染管理室、健康管理センター、医療安全推進室、病院管理課

針刺し事故は医療現場で発生する労働災害であり、単に「ケガ」をして痛い思いをするだけでなく、B型肝炎ウイルスや、C型肝炎ウイルス、HIVなどの血液媒介病原体に罹患するリスクを伴います。事故後はこれらのウイルスに罹患していないかどうかを確認するのに最低3ヵ月間を要し、受傷した職員はその間大変不安な思いをしますし、罹患した場合は生涯にわたって治療を続けなければいけないこともあります。

針刺し事故は病棟と手術場で大別され、病棟では使用した注射針のリキャップやインスリン注射に関連した事故が多く、手術場では縫合針や器材の受け渡し時に事故が発生しています。

当院でも針刺し事故の件数は年々増加傾向にあり、感染管理室、医療安全推進室、健康管理センター、病院管理課が共同して針刺し防止対策の検討および対策を行っています。特に3、4がつく日は「針刺し防止の日」として注意していただくような啓蒙活動も行っています。

針刺し防止のシステム整備に際しては、病院組織全体の意識変革や安全風土の確立が必要であり、今後も各部署・組織が連携しながら針刺し事故防止のための活動を継続してまいりますのでよろしくをお願いします。



## ホスピタリティマインド醸成研修にご参加ください

### 病院管理課 病院総務係

当院では、本学第二期中期計画に掲げる「患者満足の一層の向上」達成のため、本年7月より、ホスピタリティマインド醸成研修を実施しています。本研修は、良質な診療等医療面のサービスに加え、職員の患者に対する心のもった対応が「患者満足の一層の向上」に繋がるとの考えから、医師、看護師、メディカルスタッフ等全ての附属病院職員を対象に、コミュニケーション研修等を実施し、ホスピタリティマインドを醸成させることを目的としています。

研修は2日間で、すでに病院長をはじめ、各診療科部長、看護部長、薬剤部長等の幹部職員の方々に参加いただきました。1日目は、『暴力的な態度に出られたときの対処方法』、2日目は、『患者の権利・インフォームド・コンセント、医療上に必要な法の知識、チーム医療、患者・家族対応の基礎知識』をテーマとして、外部から医師、弁護士、臨床心理士、医療事故家族など多方面の講師を招き、研修を実施

しました。参加頂いた幹部職員の皆様からは、「もっと多くの職員にも参加してほしい」、「医療事故被害者の気持ちを少し共有できた」、「具体的な事例でわかりやすかった」などの意見を頂戴しております。今後、幹部職員以外の方々を対象とした研修も順次開催していく予定をしております。多職種を交えたグループ討議なども行うので、みなさん楽しんで研修に参加頂けるものと思います。病院職員のみならず、研修会には是非ご参加ください！！



研修会の様子

## 第 32 回まほろば PEACE 緩和ケア研修会を開催しました ～当院に在籍する卒後 2 年目から 5 年目までの全ての医師は受講をお願いします～

### 緩和ケアセンター長 四宮 敏章

「がん対策基本法」および「がん対策推進基本計画」では、すべてのがん診療に携わる医師が緩和ケアの基本的な知識・技術・態度を習得することをがん医療の重要な課題としています。また、がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針(厚生労働省健康局長通知 平成 26 年 1 月)において、「拠点病院に所属する初期臨床研修 2 年目から初期臨床研修修了後 3 年目までの全ての医師が当該研修を修了する体制を整備すること。」となっており、当院においても臨床研修センターと協力して体制整備を行っているところです。奈良県では、平成 21 年度よりがん診療連携拠点病院等(県内 6 施設)が「まほろば PEACE 緩和ケア研修会」を合計 30 回開催し、555 名の医師が修了しています。本研修会を終了した医師は、修了証書が交付され、がん性疼痛緩和指導管理料、緩和ケア診療加算、緩和ケア病棟入院料、がん患者指導管理料 1、がん患者指導管理料 2 の診療や指導が要件として認められています。

このような背景を受け、6 月 28 日(土) 29 日(日)に当院主催で開催した研修会には例年より多くの医師が参加してくれました。2 日間じっくり詰まったプログラムの研修会でしたが、全員が修了することが出来ました。受講されました皆様、研修会をお世話頂いたファシリテーターの先生方、本当にお疲れ様でした。

### 【研修会概要】

- 参加者 研修生 29 名(医師 24 名、医師以外 5 名)  
ファシリテーター(研修協力者) のべ 23 名(医師 15 名、医師以外 8 名)
- 研修プログラム  
第 1 日目: 1)緩和ケア概論、2)がん性疼痛の評価と治療、3)がん性疼痛事例検討、4)オピオイドを開始するとき(ロールプレイ)  
第 2 日目: 1)呼吸器症状・消化器症状の評価と治療、2)精神症状の評価と治療、3)がん治療におけるコミュニケーション(ロールプレイ)、4)地域連携と治療・療養の場の選択
- 研修総時間 785 分



研修会を終えて全員集合

## 第 1 回がんと就労研修会「明日香カフェ」を開催して

### 医療相談室・がん相談支援センター 主幹 川本 たか子

日本人の 2 人に 1 人ががんに罹患し、3 人に 1 人は就労可能年齢で罹患しています。がんは医療技術などの進歩により長期生存が可能な慢性疾患となり、仕事をしながら治療を継続して受けている人は全国で 32 万人以上いると言われ、働く世代のがん経験者の就労は大きな問題となっています。国や奈良県のがん対策推進計画においても、がんになっても安心して働き暮らせる社会の構築を目指し、職場における理解の促進、医療機関等における相談支援体制の充実等が求められています。このような背景を受け、「がんと就労」に関する研修会を 9 月 23 日(火)に明日香「祝戸荘」で開催いたしました。研修会は、沖縄県、宮城県に次いで全国で 3 番目に実施され、医師・看護師・相談員・患者・企業・行政の方 35 名の参加がありました。がんサバイバーシップ研究と実践での第一人者のがんサバイバーシップ支援研究部部長 高橋都先生による「がんと就労」についての講演、患者さんや企業担当者、医療者からの体験談、カフェ形式によるワークショップで参加者間の意見交換など充実

した半日になりました。がん患者の就労支援に関しては医療者の関心や理解が必要であると考えておりましたので、参加者の皆様は研修会を通して問題点の整理や、就労支援の在り方について学んでいただけたと感じています。医療従事者は患者が動きながら治療を受けられるように配慮すること、企業は相談体制や休暇制度・労働時間など環境整備に努めることが求められています。医療者と企業が、治療と就労に関して理解を深め連携することこそ安心して働き暮らせる社会環境作りに寄与すると確信いたしました。



研修会の様子

## 第66回精神保健シンポジウム 「発達障害者が地域で働くために～教育と就労支援～」を開催しました

精神医学講座 助教 上田 昇太郎

9月13日(土)、東大寺総合文化センター「金鐘ホール」において、当講座および日本精神衛生会の主催で第66回精神保健シンポジウム「発達障害者が地域で働くために～教育と就労支援～」を開催しました。当シンポジウムは、精神衛生に関する知識を普及することによって精神障害を予防するとともに、精神障害者の医療、福祉および人権問題の改善をはかり、こころの健康を保つことを目的としており、年2回、全国を巡って行われます。今回、さまざまな分野で関心が高まっている「発達障害」を基本テーマに取り上げました。当日は280名の市民が参加され、その関心の高さがうかがえました。

まず、看護学科人間発達学の飯田順三教授が「思春期から成人期の発達障害の理解」と題した基調講演をおこない、

引き続き「学校生活から就労までの支援」をテーマとしたシンポジウムで、児童精神科医や発達障害支援センター相談員、障害者職業カウンセラーのほか行政の立場からも意見が交わされました。会場からも活発な質問や意見が投げられ、盛況のうちに幕を閉じました。

発達障害という概念が徐々に普及してきた一方で、障害特性や支援方法に関しては適切に理解されないまま、障害そのものより、“二次障害”に苦しんでいる発達障害者が多いのが実情です。今回のシンポジウムが、障害の正しい理解と、年代や生活環境に応じた望ましい支援についての啓発の一助となれば幸いです。



(看護部・総務課)

## 奈良県看護フェアに参加しました

本学附属病院の看護職の魅力をPRすべく、奈良県看護フェアに参加しました。

6月29日(日)午後から奈良文化会館において、県内医療機関が約40施設ブースを出展しました。来場者は、学生から既卒者まで幅広く来訪がありました。

話を聞いた参加者からは、本学附属病院の理念等がよく分かった、大学附属病院の機能、役割について聞くことが出来たので志望先として考えたいなど、理解や興味が深まったという声が聞かれました。

未来のスタッフに出会うために、様々な機会を通じてPRを継続します。ぜひ、看護部ホームページもご覧ください。



相談の様子

(教育支援課)

## がん看護ステップアップ研修(基礎編)を開催しました

平成26年4月にオープンした看護実践・キャリア支援センターにおいて、第1回目の研修会として「がん看護ステップアップ研修(基礎編)」を9月24日(水)に開催しました。本研修会は附属病院のがん看護専門看護師をはじめとして、緩和ケア、がん化学療法、がん放射線療法などの認定看護師が講師を務め、各専門ごとに合計6回の研修会として計画しました。第1回目は厳樞会館大ホールにおいて、センター長の大名看護部長の挨拶のあと、がん看護実践のために知っておきたいこととして「がん看護共通」のテーマで腫瘍センター看護主任の津秋由美さんによる講義が行われ、94名の看護師さんたちが出席しました。その内訳は奈

良県内の病院看護師54名、訪問看護ステーションに勤務する看護師16名、そして附属病院看護師24名でした。いずれも日常の業務においてがん患者さんの援助に関わっている中で、より最新の専門的な知識や技術の獲得の必要性を感じ、本研修会への参加となったことが伺え、今後のセンターにおける事業計画に大いに参考にさせていただけるものと思われました。



研修会の様子

## 部門紹介

### C病棟4階（泌尿器科、放射線治療・核医学科病棟、透析部）

C病棟4階は泌尿器科、放射線治療・核医学科で30床の病棟です。泌尿器科は男性の入院患者さんが7割以上で、周手術期の患者さんが8割を占めています。また県内での腎移植のほとんどが当病棟で行われています。

放射線治療・核医学科は主に肺癌・食道癌・前立腺癌の放射線治療を目的に入院されます。急性期から慢性期、終末期にいたるまで、症状マネジメントとQOLを最大にできるように医師・看護師・他職種との連携を深め、日々頑張っています。

透析部は14床あり、血液透析をはじめ、各種血液浄化を幅広く行っています。透析はその人にとって一生つきあっていかなければ

ならないものです。透析のみならず何らかの治療のために入院されている人を対象としているため、より安楽な透析を目指しています。一般的な看護に加え、より安全で安心して安楽な透析が行えるように、スタッフは学会参加や勉強会により専門的知識や技術の探求につとめています。



### C病棟5階（神経内科、口腔外科、麻酔科ペインクリニック病棟）

C病棟5階は、神経内科・口腔外科・麻酔科ペインクリニックの3科混合病棟です。

神経内科は、主に脳梗塞やパーキンソン病、ALS（筋萎縮性側索硬化症）などの神経難病、また口腔外科では主に口腔顎顔面領域の良性及び悪性腫瘍、顎関節症、口唇口蓋裂など、麻酔科ペインクリニックでは带状疱疹や脊椎疾患などの患者さんが入院されています。

入院患者の年齢は乳幼児から高齢者と幅広く、また急性期から慢性期、終末期の看護を対象にケアを実践しています。

運動機能障害を持った患者さんが多いため、日常生活援助を中心にリハビリ・緩和などの専門チームと連携を図りながら家族看護も含めた看護を提供しています。また、一人一人の生活背景に目を向け、入院時から退院後の生活を

見据えた看護に取り組んでいます。多くのケアを通して患者さんから学ぶ機会も多く、日々看護師として成長出来ることに喜びを感じています。

看護師総数34名、スタッフ全員が「心美人～患者さんの身になる看護をしよう～」を目標に、日々切磋琢磨しながら頑張っています。



### C病棟6階（心臓血管外科・呼吸器外科、放射線科病棟）

私たちの病棟は心臓血管外科・呼吸器外科、放射線科の混合病棟です。少し難しそうな名前の病棟ですが、定期的に勉強会を行っており、急性期から慢性期など幅広い知識や技術が身につけられます。心臓血管外科・呼吸器外科は術後の重症度の高い患者さんも多いですが医師・看護師・PTなどがチーム一丸となって患者さんのケアを行っています。術後の急性期を乗り越えて元気に退院されていく患者さんの姿を見ると、とてもやりがいを感じる事が出来ます。

放射線科は低侵襲で最新のカテーテル治療を行っています。また、終末期ケアや緩和ケアについても学べ、患者さんと深く関わることが出来ます。

病棟の雰囲気はとても良く、優しい先輩達のキャリアアップサポートがあります。仕事ばかりではなく休憩時には先輩達と看護上の相談50%・楽しいプライベート50%の会話もして、皆楽しく働いています。



## 活躍する専門・認定看護師

### ●認定看護管理者

#### 看護師長(C病棟7階)

石飛 悦子

大学院で看護管理について学んだ後に、認定看護管理者の認定を受けました。

管理者の大切な役割として人材育成があります。教育支援室及び病棟の師長として、様々な役割を担うこと・学習の機会が提供されることで成長していく看護師をみていると改めて教育の大切さを感じます。

そして人材育成に関わる管理者自身も常に自己の管理実

践を内省し、自らを高めるためにも継続した学習が必要であると考えています。

最後に、これまでに会ったロールモデルとなる恩師や先輩方の導きがあり、現在の管理者としての私があることに感謝し、これからも、人の成長を信じ、サポートできる管理者でありたいと思います。



### ●認定看護師

#### がん化学療法看護認定看護師(C病棟8階)

増谷 尚代

がんは、日本人の2人に1人は一生の間に罹患すると言われています。治療法の1つである抗がん剤治療は、新しい抗がん剤や分子標的治療薬が開発される一方、患者さんやご家族にとっては理解することが難しいものとなっています。患者さん自身が治療法を十分理解した上で意思決定を行っていくには、専門的知識を持った看護師の役割が重要となってきます。また、患者さんにとって、抗がん剤治療を継続して行えることは命の綱であり、副作用を最小限にとどめ、安心して日常生活が送れるようセルフケア支援を行うことも大切です。

現在は病棟に所属し、スタッフと共に、がん看護専門看護師や医師、薬剤師など他職種とも連携し、治療期だけではなく、がんと診断を受けた時期から終末期を迎えた患者さんとも関わっています。

今後はがん化学療法看護認定看護師として、抗がん剤治療を受ける患者さんやご家族に寄り添い、個別的な症状マネジメントを行っていくとともに、抗がん剤治療に携わるスタッフ全員が、さまざまな不安を抱えるがん患者さんのよき支援者になれるよう、がん化学療法看護の向上を目指し、看護モデルになれるよう頑張っていきたいと思います。



## 平成26年度奈良県看護協会長表彰を受賞して

公益社団法人 奈良県看護協会における協会活動に貢献し、看護業務の質向上および看護教育・学術研究について顕著な功績があったとして、和田容子看護副部長が奈良県看護協会長表彰を受賞されました。おめでとうございます。

#### 看護副部長 和田 容子

このたび、6月21日(土)かしはら万葉ホールにおいて、平成26年度奈良県看護協会長表彰を受賞させて頂きました。心からお礼申し上げます。

これまで長年にわたり看護師生活を送ることが出来たのも、多くの先輩方のご指導と看護スタッフに恵まれたおかげと感謝しております。

その間に、看護協会活動に貢献する機会を頂き、たくさんの方に出会うことが出来ました。今後もこの賞を励みに、さらに精進してまいりたいと思います。



## 電気保安功労者経済産業大臣表彰を受賞して

#### エネルギーセンター 課長補佐 丹波 啓之

8月1日(金)東京會館において、電気保安功労者として経済産業大臣表彰の栄誉にあずかり、身に余る光栄として心より感謝しております。

私は医大の電気保安の責任者、電気主任技術者に選任されています。大口需要家として関西電力より22,000Vの特別高圧を受電し、各所で100V、200Vの電気を安全かつ安定的に使用できるように、エネルギーセンターで努めています。

今後も、医学の発展、地域医療に貢献できますよう、防災と省エネの観点から、信頼性の高いインフラの構築に邁進していきたいと思っています。



「電気保安功労者表彰」は、電気保安に関し、保守運営体制・管理体制が優良であり、保安教育の推進や安全思想の普及などに永年にわたり努力してきたと認められる企業等及び個人を経済産業大臣が表彰するものです。

## レポート

## 第8回 役員会(7月2日)

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
  - (1) 教員の人事について
  - (2) 任期制教員の再任審査について
  - (3) 教員の海外留学について
  - (4) 教授候補者の選考に係る基本方針について
  - (5) 女性研究者研究活動支援(研究支援員配置)事業規程の一部改正について
  - (6) 外国人客員研究員の受入れ期間変更について
- 2 事務・技術職員の新規採用試験の実施にあたり、実施予定職種やスケジュール等を承認
- 3 看護職員採用試験において一般4名の合格者を決定

## 第5回 教育研究審議会(7月3日)

- 1 教員の人事について、8月1日付け採用、8月1日付け学内配置換え、9月1日付け採用、9月1日付け昇任を承認
- 2 9月30日付けで任期満了となる任期制教員のうち再任申出のあった准教授1名の再任を承認
- 3 教員の海外留学について、助教1名の海外留学期間延長を承認
- 4 母性看護学教授候補者の選考に係る基本方針を承認
- 5 情報セキュリティポリシーの策定を承認
- 6 臨床教授の称号付与を承認
- 7 女性研究者研究活動支援(研究支援員配置)事業規程の一部改正を承認
- 8 外国人客員研究員の受入れ期間変更を報告

## 第6回(臨時)教育研究審議会(7月22日)

- 1 第一生理学教授候補者として齋藤康彦氏を決定し、役員会に答申
- 2 教員の人事について、9月1日付け採用、9月30日付け退職を審議

## 第9回(臨時)役員会(7月22日)

- 1 第一生理学教授候補者として齋藤康彦氏を承認
- 2 教員の人事について、9月1日付け採用、9月30日付け退職を承認

## 第10回 役員会(8月6日)

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
  - (1) 附属図書館利用規程の改正について
- 2 役員会招集日(平成26年10月から平成27年3月)の決定を承認
- 3 附属病院の組織変更に伴う規程の改正を承認
- 4 医療技術職員採用数を承認
- 5 看護職員採用試験において本学6名、一般2名の合格者を決定
- 6 2013年度 針刺・切創等事故調査結果を報告

## 第11回 役員会(8月20日)

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
  - (1) 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会大学連携協定の締結について
  - (2) 関西公立医科大学・医学部連合に関する協定の締結について
- 2 渉外委員会規程の一部改正及び委員の選任を承認
- 3 看護職員採用試験において他学推薦26名の合格者を決定。

## 第12回 役員会(9月3日)

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
  - (1) 教員の人事について
  - (2) 任期制教員の再任審査について
  - (3) 教員の海外留学について
  - (4) 教養教育部門設置等に伴う諸規程の新設・改正について
- 2 なかよし保育園の整備(増築)を承認
- 3 看護職員採用試験において一般7名の合格者を決定
- 4 平成26年度の財務状況(6月末現在)を報告

## 第7回 教育研究審議会(9月4日)

- 1 教員の人事について、9月30日付け退職、10月1日付け及び10月9日付け採用、10月1日付け昇任及び兼務解除、10月1日付け昇任を審議
- 2 10月31日付けで任期満了となる任期制教員のうち再任申出のあった助教1名の再任を審議
- 3 教員の海外留学について、助教1名の海外留学期間延長を審議
- 4 教養教育部門設置等に伴う諸規程の新設・改正を審議
- 5 研究医養成コース運営委員会委員の選任を審議
- 6 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会大学連携協定の締結を報告
- 7 関西公立医科大学・医学部連合に関する協定の締結を報告
- 8 附属図書館利用規程の改正を報告

## 第13回(臨時)役員会(9月4日)

- 1 教育研究審議会審議結果の答申を審議・決定

## 第14回 役員会(9月17日)

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
  - (1) 平成25年度業務の実績に関する評価結果について
- 2 「大規模地震災害対策本部基本マニュアル」の改定を承認
- 3 「災害医療対策基本マニュアル」の策定を承認
- 4 教養教育部門設置等に伴う諸規程の新設・改正を承認
- 5 職員(臨床検査技師、診療放射線技師、薬剤師、臨床工学技士、理学療法士、作業療法士、精神保健福祉士)採用試験の合格者決定及び追加募集を承認
- 6 平成25年度財務諸表が奈良県知事より承認されたことを報告
- 7 今年度の防災活動スケジュール及び総合防災訓練の実施を報告
- 8 医大病院玄関前への路線バス乗入運行を報告

## メディア掲載情報をお寄せください～学報誌面で紹介します～

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生をこの「学報」誌面で紹介します。

掲載者	掲載メディア	掲載概要
熊井 司 教授 (スポーツ医学講座)	朝日新聞 朝刊 6月10日(火)	朝日新聞の健康相談コーナー「どうしました」で、読者からの青少年の下肢疲労骨折に関する相談に疲労骨折の特徴や現状及び治療法などについてQ&A形式で分かりやすく説明した。
酒井 宏水 教授 (化学)	読売テレビ系 「世界一受けたい授業」 7月5日(土)	6限目「保健体育」で、人工赤血球の研究が紹介されました。人工赤血球は一体何から作られているのでしょうかという問いかけに対し、ゲストの一人が「蟹の甲羅」と答えました。これは間違いで、正解は「期限切れの血液」です。 <a href="http://www.ntv.co.jp/sekaju/onair/140705/06.html">http://www.ntv.co.jp/sekaju/onair/140705/06.html</a>
大崎 茂芳 特任教授 (皮膚科)	FM ラジオ エフエムはなこの ラグタイム 7月5日 中西哲生のクロノス FM ラジオ(全国ネット) 7月15日、7月22日 TOKYO FM 8月4日～8月7日 産経新聞 8月26日夕刊	「クモの糸」：クモの糸の研究の面白さとその成果の紹介 7月15日「クモの糸(Ⅰ)前編」：クモの糸で得られた成果の紹介 7月22日「クモの糸(Ⅱ)後編」：コラーゲンの研究とともにクモの糸への取り組みのきっかけ 「未来授業」：クモの糸を通じての青少年向けの科学の面白さを紹介 「クモの糸の絆で結ばれ…」：クモの糸で得られた世界で初めての研究成果とそれに立ち合ったベットの絆
奥地 一夫 教授 (救急医学・ 高度救命救急センター)	NHK 総合「おはよう関西」 7月7日(月)	ITで変わる救急医療 e-Match導入の経緯、効果や今後の課題などについてレポートされた。
今村 知明 教授 (健康政策医学)	関西テレビ放送 ANCHOR スーパーニュースアンカー 7月23日(水) 読売新聞 7月24日(木) 朝日新聞 DIGITAL 7月24日(木) 読売新聞 8月6日(木)	中国・上海の食品会社が期限切れの鶏肉を販売していた問題について、食品防御の視点よりのコメントが放映されたが掲載された。 今村が委員長を務めるアクリフーズ「農業混入事件」に関する第三者検証委員会の立場より、採業を再開した群馬工場についてのコメントが掲載された。
坪井 昭夫 教授 (脳神経システム医科学)	産経・奈良新聞(地方版)朝刊、共同通信(47NEWS) 他のWEBでの記事掲載、奈良テレビ放送(ニュース) 8月1日(金) 朝日新聞(全国版)朝刊 8月21日(木) 読売新聞(全国版)朝刊 8月25日(月)	匂いの情報処理を行っている嗅球の神経細胞(ニューロン)が発達する際に、NPAS4というタンパク質が、匂い刺激の強さに応じて産生されることにより、ニューロン間の接続に関与するシナプスの数を調節していることを、世界に先駆けて、マウスを使った実験で突き止めた。この成果をまとめた論文が、米科学雑誌(CELL PRESS)の「Cell Reports」(8月7日号)に掲載され、その表紙を飾った。
長谷川 正俊 教授 (放射線腫瘍医学)	奈良日日新聞 朝刊 8月8日(金)	奈良県議会ががん対策推進議員連盟会長の小泉米造氏とがん教育について対談しました。がんに関する正しい知識を身につけて、予防と早期発見を心がけ、適切な治療を選択できれば、がんによる死亡は減少するでしょう。
渡辺 賢治 特任教授 (大和漢方医学薬学センター)	奈良日日新聞 8月8日(金)	これからの高齢化社会に安価で人の体に優しい漢方薬が適応することや薬草や薬木が山間地の再生につなげるなど漢方への期待や県の推進する「漢方のメッカ推進プロジェクト」の今後の可能性などについて、奈良県、奈良市、奈良市をつなぐ育成会の小西英丈理事長と「漢方医療の可能性と奈良県の役割」をテーマとして鼎談した。
松井 英人 講師 (血制御医学)	朝日新聞デジタル 8月16日(土)	京都大学 iPS 細胞研究所の堀田秋津助教らのグループとの共同研究で、ピギーバックベクターを用いた新しい血液凝固因子遺伝子導入法を開発しました。このベクターシステムで血友病 A モデルマウスの血液凝固機能を改善させることに成功し、この成果をまとめた論文が米科学雑誌「PLOS ONE」に掲載されました。
細井 裕司 理事長・学長	NHK Eテレ 「サイエンスゼロ」9月14日(日)、9月20日(土) NHK 総合・関西 ニュース 9月16日(火) NHK 総合・関西「ならナビ」9月16日(火) NHK 総合「おはよう関西」9月17日(水)	「新たな聴覚」の研究最前線として、細井が発見した「軟骨伝導」が紹介された。軟骨伝導は、耳の軟骨の振動で音を聴く聴覚である。これを利用した携帯電話は、騒音下でもはっきり聞き取れ、音漏れもない。産業に応用できる今後の可能性について解説した。

学 科	入試区分	募集定員	出願期間	試 験 日	合格発表(予定)
医学科	推薦*1	38	平成26年12月9日(火) ～12月12日(金)	平成27年1月31日(土) 2月1日(日)	平成27年2月10日(火)
	前期	22	平成27年1月26日(月) ～2月4日(水)	平成27年2月25日(水) 2月26日(木)	平成27年3月6日(金)
	後期	53		平成27年3月12日(木) 3月13日(金)	平成27年3月20日(金)
看護学科	推薦*2	30	平成26年11月4日(火) ・11月5日(水)	平成26年11月23日(日)	平成26年12月9日(火)
	社会人	5			
	前期	40	平成27年1月26日(月) ～2月4日(水)	平成27年2月25日(水) 2月26日(木)	平成27年3月6日(金)
	後期*2	10		平成27年3月12日(木)	平成27年3月20日(金)

\*1 医学科推薦入試は「緊急医師確保特別入学試験」(13名)と「地域枠入学試験」(25名)を実施します。 \*2 看護学科の推薦選抜試験と後期日程は地域枠のみ募集します。  
詳しくはホームページで確認してください(<http://www.naramed-u.ac.jp/user/examinee.html>)  
看護学科の推薦・社会人入試募集要項は9月中旬から配布中です。医学科推薦入試募集要項は11月上旬、その他の募集要項は12月上旬から配布予定です。

学報バックナンバーは web サイト上でもご覧いただけます。  
(<http://www.naramed-u.ac.jp/info/introduction/magazine.html>)

掲 示 板

10月1日より、診療科の受付や料金計算などを行う医事業務の委託先が代わりました。8月に委託事業者の選定をプロポーザル方式により実施した結果、平成26年10月から3年間の医事業務委託先が、(株)ニチイ学館に決定しました。会計待ち時間の短縮や、診療報酬請求の査定率の改善等いろいろな提案を頂いています。今後も、新しい委託業者とともに、患者サービスの向上のための取り組みを実施していきますので、ご協力よろしくお願い致します。

医療サービス課・病院管理課

編集後記

看護学科開学10周年ですが、高等看護専門学校、看護短期大学部、看護学科を経て現在があり、奈良県や本学に大きく貢献してきています。H24年には大学院修士課程も設置しさらに大きな飛躍が期待されます。全米オープンで錦織圭選手が注目されていますが、もっと注目されていい選手は国枝慎吾選手です。この大会の車イスの部シングル&ダブルスともに優勝していますが、今年は4大大会すべてで優勝し、2007年にはグランドスラムも達成しています。グランドスラムとは4大大会すべてを「1年間」で制する偉業のことです。2006年から世界ランク1位となり、2014年も1位です。国枝さんはあまり注目されていませんが、偏った情報に踊らされない、真の情報を得たいものです。

- 岸本 年史 (精神医学)      山名香奈美 (母性看護学)      吉田 一良 (病院管理課)
- 藤本 雅文 (物理学)      錦 三恵子 (看護部)      森田 英之 (総務課・広報室)
- 京谷 陽司 (薬理学)      藤谷 威行 (研究推進課)      植松 聡 (総務課・広報室)
- 藤本 正男 (内科学第三)      永井 淳 (教育支援課)      (○印は編集委員長)